一年生対象　情報リテラシーⅡ

ティーチング・ポートフォリオ

佐賀女子短期大学　地域みらい学科　竹中真司

１．教育の責任

本コースでは、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎的なスキルを身に付けさせることを目標として、本科目を展開している。また、本科目は「教養・資格に関する科目」として位置づけられており、本学科の「幅広い教養と専門的知識・技能を身に付け、主体的な職業ビジョンや広い専門的視野を身に付け、地域の未来を創造していく力を修得する」という学習成果と関連している。学習成果の評価項目としての①「建学の精神に則り、社会人・職業人としての必要な基本的生活習慣や態度を身に付けている」⑤「利用者の状態や状況をみて、その場に応じた適切な行動がとれる」の部分と特に関連している。

2．教育の実施における理念

今日、介護現場においては基礎的な情報処理技術が求められている。パソコンやタブレット端末から記録を行い、利用者の見守りや排泄予測に活用している施設などがある。ICT を駆使した健康管理機器も導入されており、テクノロジーとの融合は今後ますます進むであろう。最新の情報技術に習熟することは結果として、膨大な記録業務から支援者が解放され、利用者へのより豊かな支援に繋げられる職員へと成長していけるのだ。

3．教育の方法

前期はネットリテラシーとワードを学び、後期は表計算とパワーポイントを学ぶ。ワープロ及び表計算は毎回練習と課題作成をすることで技能を身につけるようにしている。評価方法は毎回の課題と理解度チェックテストである。

４．教育の成果

学生による到達度評価（授業アンケートなどによる評価結果）昨年は「とても当てはまる」が 17%、「まあまあ当てはまる」が 41%で、合わせて 58%が当てはまると答えた。本年は「とても当てはまる」が 25%、「まあまあ当てはまる」が 25%で、合わせて 50%が当てはまると答えた。昨年同様に低く、特に今年はミャンマー人留学生とネパール人留学生のキーボードからの入力スピードの差が激しく、最後までこの差が埋まらなかった。習熟度別にクラスを分けることも再度考える必要がある。

〇学生の満足度（授業アンケートの評価結果）総合評価の平均値＝（3.83）

一昨年度は 4.29、昨年は 3.83、本年度は 3.85 と横ばいであった。人数が増えて 2 教室で進行する上に、習熟度にバラつきがあり、私一人では対応が困難であったことは否めない。学生をやる気にさせ、課外での取り組みも自発的にできるような仕組みも考えていく必要がある。アンケートの自由記述ではポジティブな意見が多いが、受講生の能力に応じた内容の展開が求めらる。

５．目標

授業相互評価ではコメントで、「ミャンマー人留学生は課題を早く終わらせているようだが、ネパール人留学生は時間がかかる」とのご指摘を頂いた。「昨年はやり方が分からない学生には，近くにいる学生がアドバイスしていて、ついて行っているようだったが、今年はあまり見ない」とのコメントもあった。お互いに手順を確認したり、教え合うということが、授業内で自然に出てきていなかった思う。「全くわからない学生が一からわかる」という事を常に意識し、またある程度そのやり方をマニュアル化してしまうということも大事ではないかと考える。また、後期については完全に 2 コースを分けて実施し、課題は厳選してより効果的な演習を組んでいくことを心掛けたい。授業改善取組においてグループの夏目教授より頂たコメントなどを取り入れて改善を進めたい。